

製品名: MAN1B1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13617**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	MAN1B1
別名	MAN1B1; Endoplasmic reticulum mannosyl-oligosaccharide 1; 2-alpha-mannosidase; ER alpha-1,2-mannosidase; ER mannosidase 1; ERMan1; Man9GlcNAc2-specific-processing alpha-mannosidase; Mannosidase alpha class 1B member 1
遺伝子 ID	11253.0
SwissProt ID	Q9UKM7
免疫原	MAN1B1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 100-180

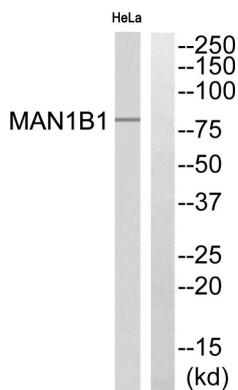
背景

この遺伝子は、グリコシルヒドロラーゼ 47 ファミリーに属する酵素をコードします。この酵素は N-グリカン生成において機能し、クラス I α -1,2-マンノシダーゼとして Man9GlcNAc を Man8GlcNAc 異性体 B へと特異的に変換します。小胞体関連分解経路における N-グリカンの Man5-6GlcNAc2 へのトリミングに必須です。この遺伝子の変異は、常染色体劣性知的障害を引き起こします。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。関連する疑似遺伝子が 11 番染色体上に同定されている。[RefSeq 提供、2011 年 12 月],触媒活性: オリゴマンノースオリゴ糖 Man(9)(GlcNAc)(2)の末端(1 \rightarrow 2)結合 α -D-マンノース残基の加水分解。補因子: カルシウム。酵素調節: 1-デオキシマンノジリマイシンとキフネンシンの両方によって阻害される。機能: Asn 結合オリゴ糖の成熟に関与する。Man(9)GlcNAc(2)から α -1,2-結合マンノース残基を 1 つ切り取って Man(8)GlcNAc(2)を生成する。生成されるのは、中間腕末端 α -1,2-マンノースを欠く Man(8)GlcNAc(2)異性体 B のみである。誤って折り畳まれた糖タンパク質を分解の対象とすることが重要であるため、糖タンパク質の品質管理に関与している可能性があります。経路: タンパク質修飾; タンパク質グリコシル化。類似性: グリコシル加水分解酵素 47 ファミリーに属します。組織特異性: 広く発現しています。 ,

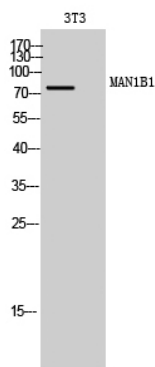
研究分野

N-グリカン生成;

画像データ



MAN1B1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは MAN1B1 ペプチドでブロッキングされている。



MAN1B1 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析